

2月

令和6年2月1日

ちびっこの森通信 vol.81

☆☆今月のテーマ☆☆

- ・節分の由来や鬼の話などに興味をもち、豆まきを楽しむ
- ・季節の移りかわりで自然に触れ合い、変化に目を向けながら元気に遊ぶ

～今月の園内学習～

- ・足し算…6の段
- ・掛け算…6の段
- ・声に出して読みたい日本語…
「名人伝」中島敦 ほか
- ・歴史カード…「御木本幸吉」ほか
- ・国旗カード…北アフリカ地方
- ・地理カード…中国地方
- ・絵画カード…「カルロス騎馬像」ほか

♪今月の歌♪

- ◇豆まき
- ◆たのしいな
- ◇うれしいひなまつり

～行事予定～

- ・書道教室…1日・8日・15日・22日
- ・節分会…2日
- ・リミック教室…6日(幼児)
26日(乳児)
- ・発表会…10日
- ・英語教室…13日(幼児)
15日(乳児)
- ・体操教室…14日(0・1歳児/3歳児)
16日(2歳児/4・5歳児)
- ・身体測定…20日(幼児)
21日(乳児)
- ・お誕生日会…27日
- ・避難訓練…28日

～保育のポイント～

脳に関する考察が随分と進み、生まれたての赤ちゃんの脳は400グラム(成人は1400グラムくらい)、1千億個の神経細胞から成っていることが分かってきました。諺「三つ子の魂百までも」やイタリアのモンテッソーリ女史の「胎生の吸収精神」の「大人はもう失っているが、これは神様の創造力にも比すべき非常に不思議な力で、赤ちゃんが生まれ落ちた環境から刺激を受け、環境に適合する素質を身につけるなどして用がすめば、急速に消えていく」は、赤ちゃんから3歳くらいまでの漠然とした驚異的な吸収力と表したもとして知られています。このことを脳科学的に解明すると、脳の神経細胞が当初の数から落ち着いた数になり、(言葉など)外部からの刺激に対応して神経細胞同士が繋ぎ合わされて対応できるようになる作業(脳の可塑性)が最高潮に達すると共に、神経細胞同士を繋ぎ合わせる神経線維に(グリア細胞という膜)絶縁膜が張りつけられることによって情報処理が正確に行われる脳の構造がほぼ出来上がるのがこの時期だと分かってきたことから理解できることとなってきました。こうして脳の伝達スピードが速まり、脳の情報処理能力がそれまでに比べて格段に高まった結果、コンピュータでいえば、「ハードウェア」にあたる部分が完成した、ということになります。ですから、その頃に覚えたことは決して忘れることはないという意味で諺を裏付けることに繋がっていますし、人間の基礎づくりで大事な時期の養育環境を再考する一助になればと思います。～わらべうたがこどもを救う(大島清著)及び赤ちゃん・幼児の知力と才能を伸ばす本(七田眞著)より抜粋～

「ひよこ」と「りす」組だより

暖冬との予報ながら時折、押し寄せる寒波に大人は身が縮む思いですが、外遊びを楽しむこどもたちはやはり「風の子」と改めて実感させられる今日この頃。ひよこ組の子たちは「こうしたい」や「やってほしい」といった自我が芽生えてきており、自分の思いを涙ながらのアピール姿が目立つようになってきました。そんな時は、保育スタッフがきちんと受け止めて気分転換して落ち着かせるようにしています。一方、お友だちのことが気になる月齢のりす組の子はお互いの行動を見て、真似っこをしたり、(床に同じ玩具があっても)お友だちの遊んでいる遊具が気になり、つつい欲しがってしまいがちです。そんな時、以前は無言だったのが、今では「かして」の願いをし、「どうぞ」と応対し、「ありがとう」の感謝といったコミュニケーション力が備わってきつつあるのが大きな成長と言えます。これからもこどもたちの成長を見守り、元気に早春を謳歌していきたいと思ひます。

「きりん」と「こあら」組だより

今冬は暖かく雪は無理と思っていたのも束の間で寒波による雪が所々の積もってこどもたちは外遊びでニコリ笑顔となっていました。きりん組は寒さだけでない外遊びの楽しさを求め、仲良しこよしで手を繋ぎ目的地へ移動し、外気を存分に取り入れ「冬」の情景を満喫しています。最近、外遊びで仕度中の月齢下の子のお手伝いにも目覚めてきているようで心優しい姿をよく見かけるようになってきました。一つ上のこあら組の子たち同士の連帯感や絆はなかなかのもので、お互いを気に掛けたり、声を掛け合ったりする心地よい関わり合いがよく見られます。こうした協調的な関係性はコミュニケーション力とも密接に関係しているのでよく見守っていききたいと思います。これからも寒暖差で体調不良等も頭に入れて元気に過ごしていけるように気をつけていききたいと思います。

「ひつじ」と「ぞう」組だより

穏やかな今冬ですが時々、身震いする寒さで驚かされるもしばしば。こどもたちは空からの粋な贈り物、白い冷たい雪でこの時季ならではの遊びをして楽しく過ごしています。一頃の「自分が、自分が」から一歩引いた「どうしたの?」とお互いを思いやる心が育まれ、自分だけでなく相手の気持ちを理解しようとするひつじ組のみんなの様子や協同的な活動をしていく姿を頼もしく感じています。園生活がいよいよ最終コーナーに差し掛かったぞう組のみんなは就学期に合わせた、お昼寝なしの生活リズムが定着し、その間は就学準備のワークシートなどで読み書きに精を出しています。お互いの関係性は円熟味を増して、他の月齢児に対する気づかいなども出来ているのでこのような形で就学期を迎えられるように最後まできちんと見届けていききたいと思います。

給食だより

～季節の変わり目の強い味方～

節分とは文字通り、立春、立夏、立秋や立冬の前日を指し、季節の分かれ目を指します。なかでも、古来より一年のはじまりの元旦のように「立春」前日の節分が特に大切とされたことを受け、その風習が現在は受け継がれています。食事や医療も十分とは言えない昔は病気や災害など悪いものは全て「鬼」の仕業とされ、大豆などは「穀霊」と呼ばれる精霊が宿るものと信じられたことから(悪いこと=)鬼退治に最適とされ、豆(魔の目に豆をぶつけ、魔を減らす、の魔滅(まめ))まきに使用されてきています。季節の変わり目は体調を崩しやすいのでこのような風習が続いているわけですね。特に、冬から春へとそんな季節の移りかわりに元気に過ごしていくためには栄養価の高い旬の食材を取り入れていくのが肝要と言えます。まずは、エネルギー源であり、ビタミンCやむくみ予防のカリウム、食物繊維豊富で便秘解消に役立つ「新じゃが」や「タケノコ」が挙げられ、ポテトサラダや煮物や天ぷらなどで舌鼓を打つことができます。また、カリウムやマグネシウムなどのミネラルやビタミンB群を含む「菜の花」はお浸しや炒め物がお薦め。他にも、葉がしっかりと巻かれた冬キャベツは免疫系の働きを支えるビタミンCを豊富に含み、煮崩れないためにロールキャベツなどの煮物に最適。野菜以外の旬の美味しい食材として「ヒラメ」や「はまぐり」などもあり、畑の肉の大豆などと組み合わせ摂取することで寒暖差のある時季の体力維持や増強に最適だと思います。季節の変わり目をしなやかで元気に過ごしていくようにしましょう。